
命の選択

加倉千早

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

命の選択

【Nコード】

N7108L

【作者名】

加倉千早

【あらすじ】

戦うしか生き延びる術はない。アキラを待ち受ける「敵」とは？

お題は「ターニングポイント」

構想 + 執筆 〃 2時間

【作品番号29】

その男が親しげに振る舞う様に、アキラは居心地の悪さを感じた。御婦人方に受けそうな笑みを浮かべる、愛想のいい男だ。

「ルールは簡単。一定時間内に敵を倒せばクリアだ。ゲームは得意かね？」

上から目線なのは許そう。しかし、何か気に食わない。

「まあ、人並みには」

アキラは素っ気なく答えた。銃撃戦よりも、剣を振り回すタイプのほうが得意だ。

「昔、僕も嵌ったものだよ。鬼畜武者シリーズ。罪もない通行人を手当たり次第に斬りまくる、爽快アクション。知ってる？」

顔に似合わずマニアックだな。

「それ、今は販売禁止になってる奴じゃ？」

「そう。あんな神ゲーをプレイできないなんて、今の子供たちは可哀想だな」

「いや、あの当てもR指定だったはずだろ」

「カリギュラ効果。禁止されると却ってやりたくなるものだよ。ちなみに、カリギュラ効果というのは、ローマ皇帝カリグラをモデル

にしたアメリカ映画『カリギュラ』が語源だね」

「訊いてねえし」

「とにかく、R指定なんてものは、やってください、と言っているようなもので、ほら、殺人も禁止されてるからやりたくなくなるという」

「アホか。おまえ、頭おかしいんじゃないかねえか？」

「そうかも知れないねえ。だって僕は、残虐なゲームが大好きだから。まあ、そんなわけだから、好きな武器をひとつ選びなよ」

相変わらずの笑顔。残虐そうに見えないところが、逆に不気味でもある。笑顔の下に、どれほどの闇を隠しているのか。いや、興味はない。目の前の男がどんな変態だろうと自分には関係ないし、どうでもいい。

それよりも、武器だ。古今東西の、多種多様な武器が並べられている。ざっと見渡しただけでも、五十種類はありそうだ。武器屋か、ここは？ レアな武器でも売ってるのか？

日本刀もある。手に取ってみたが、意外と重たい。これを片手で振り回していた昔の武士は化け物だな。

「これ」

「お目が高い。この武器はレイピアと言って、十六世紀の」

「知ってるよ。だから選んだ」

レイピアくらいの重さなら扱える。ここで重い武器を選ぶ奴は馬鹿だ。

「そうか。ならば案内しよう。君の戦場へと」

男の顔からは笑みが消えていた。

案内された扉の前で、アキラは立ち止まった。

敵を倒せばクリア。敵を倒せばクリア。敵を倒せばクリア。ぶつぶつと何度も繰り返した。ためらわない。ためらえば、負ける。正念場だ。この先にこそ未来がある。未来への扉を、アキラは押した。

やけに眩しい。まるで、古代ローマの闘技場だ。五万人くらいは収容できそうな観客席が人で埋め尽くされている。人がゴミのように見えた。

「進みなさい」

後ろから声がした。

行くしかない。後戻りが出来ないところまで、来た。

アキラはゆっくと歩を進めた。

敵は、どんな奴だ？

闘技場の中央に、何かが置かれている。籠だ。アイテムでも入っているのか？

アキラは恐る恐る近付いた。

籠の中は、赤ん坊だった。どういうことだ？

答えは、観客が知っていた。殺せ、殺せ、と大合唱している。

まさか、この赤ん坊が敵だとも言うのか？

冗談じゃない！

アキラは頭の中が混乱してきた。俺は今、何をやるうとしている？ なぜ俺は、こんな場所に立っている？ 落ち着け。俺は、未来を勝ち取るために、ここへ来たはずだ。

殺人罪。死刑、もしくは闘刑。敵を殺せば減刑され、死刑は免れる。模範囚なら、十年で刑務所から出られることもある。そう聞かされた。だから、戦うことを選んだ。

しかし、赤ん坊は殺せない。そこまで堕ちたくはない。

殺せ、殺せ、の大合唱が頭の中に響く。頭がおかしくなりそうだ。

「嫌だ！」

アキラは叫んだ。

赤ん坊を殺すくらいなら、自分が死んだほうが百倍マシだ。

昔は残虐なゲームも店頭に並んでいたと聞く。今では、裏ゲーとしてネットで取引される程度だ。社会は、残虐な考え自体を否定す

るようになっていった。行為に及ばなくても、考えるだけで罪だというわけだ。

「おまえら、腐ってやがる。この子を殺すくらいなら、おまえら全員ぶつ殺して、俺も死ぬ！」

レイピア。なんとという脆弱な武器を選んだものだ。どうせなら、クレイモアでも選べば良かった。

アキラは剣を抜くと、観客席に向かって走り出した。途中で息絶えてもいい。腐りきった連中を、ひとりでも多く道連れにして死んでやる。

それから先は、何がどうなったのか、よく分からなかった。

気が付いたら、学校の体育館よりも遙かに広い、しかし何も無い殺風景な部屋に、ぽつんと立っていた。

後ろから声がした。

「懲役十五年。それが君の刑だ」

振り向くと、アキラを案内してくれた担当官の姿があった。鬼畜武者シリーズを「爽快アクション」だとか「神ゲー」だとか抜かしていた頭のおかしい男だ。

なんだろう。この例えようもない安堵感は。なぜだか救われたような気分になった。

懲役十五年。俺は、やり直してもいいのだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7108/>

命の選択

2011年10月9日21時42分発行